

2020年3月27日

一般社団法人日本化学工業協会

日本毒性学会「第6回 日化協 LRI 賞」研究受賞者決定

一般社団法人 日本化学工業協会(住所:東京都中央区、会長:淡輪 敏(三井化学(株)代表取締役社長)、以下「日化協」)は、研究者奨励(育成)の一環として、“化学物質が人の健康や環境に与える影響”に関する優れた業績をあげた研究者を表彰するため、一般社団法人日本毒性学会(理事長 熊谷嘉人)内に設立した日化協 LRI^{*1} 賞の第6回目の受賞者を次の通り決定いたしました。

^{*1}Long-range Research Initiative = 長期自主研究活動



[受賞者] 角 大悟 (すみ だいご)
徳島文理大学 薬学部 准教授

[テーマ] 慢性ヒ素中毒の発症機構と生体応答に関する研究

[授賞理由]

化学物質の安全性評価において、人への影響及び詳細な作用機構を把握することは非常に重要です。今回授賞の研究は、ヒ素毒性の発現機序にとどまらず、毒性軽減、解毒機序までの幅広い研究が行われ、主に次のよう

な業績が評価されました。

- ① ヒ素化合物の毒性発現を左右する因子として、ヒ素の輸送機構と解毒機構に着目し、抱合と排泄を促進する転写因子 Nrf2 がヒ素毒性の軽減因子として働くことを明らかにした。また、慢性ヒ素ばく露による心毒性と Nrf2 活性化能の関連を示し、Nrf2 がヒ素化合物の蓄積、毒性発現に中心的な役割を果たすことを示し、ヒ素化合物の毒性メカニズム解明に貢献した。
- ② ヒ素の解毒に関わるヒ素メチル基転移酵素の発現調節機構の研究から、mRNA の選択的スプライシングが解毒機能の低下を引き起こすことを示し、多くの化学物質の毒性発現機構における新しいターゲットとして、毒性発現機構解明への貢献が期待される。

なお、授賞式は、2020年6月29日(月)～7月1日(水)に仙台国際センターで開催される第47回日本毒性学会学術年会において執り行われます。

LRIとは、国際化学工業協会協議会(ICCA)に加盟している欧州化学工業連盟、米国化学工業協会および日化協の3つの団体によって1999年より運営されているグローバルプログラムであり、化学物質の安全性を向上させ、不確実性を低減させることを目的に、“化学物質が人の健康や環境に与える影響”に関する研究を長期的に支援する自主活動です。日化協では2000年よりLRIを通じて、年間1億円規模の研究支援を始め、2015年にはLRIの認知拡大と理解促進のほか、優れた若手の研究者および世界をリードするような新しい研究分野を発掘することを目指して一般社団法人日本毒性学会内に「日化協LRI賞」を設立いたしました。

以上

《本件に関するお問い合わせ先》

一般の方から	： (一社)日本化学工業協会	LRI 事務局	本多	TEL:03-3297-2575
報道関係者から	： (一社)日本化学工業協会	広報部	永井	TEL:03-3297-2555